

序

本書は、一般的な教科書でもなければいわゆる学術書でもありません。皮膚腫瘍病理に関して系統的にまとめ各腫瘍を紹介した著者の講義録に加筆し、一冊の本としてまとめたものです。講義録には、著者が病理を学び始めて以来、読破してきた皮膚病理教科書、論文、学会での発表症例、恩師からの教えと議論、自ら経験したり貸与された貴重な症例を通して得た知見と自らが思い描いた考えを盛り込んでいました。その考えや解釈が本当に正しいかどうかは分かりません。ただ、最近、著者が今まで理解してきたり、疑問に思い自分なりに納得・解決してきたこと、実際の診断に際して悩みながら実践してきたことの多くは他の同僚にも共通するものではないか、それらを共有のものとするために記載し、残し、読者に提供することは大切なことではないかと考えるようになりました。それが本書をまとめるようになった理由です。

数年前に、前段階として病理総論について理解して頂く必要があると考え、「目からウロコの病理学総論」を上梓させて頂きました。ヒトの身体の中に起こる病気にはどのような状態があり、それをどのような名称で表現するのか、どのような発生のメカニズムがあるのかをまとめたものです。この本は、病理学を学び始めた人への一般教科書でありながら、敢えて「皮膚科医のための病理学講義」という副題を付けました。それは、検査技師や皮膚科医向けの講義録をまとめたことにもよりますが、皮膚病理を学ぶ人にはこのくらいの病理総論の知識を持って欲しいという著者の希望を表現したのもでもありました。今回は「皮膚病理学講義」との総表題を付けさせて頂きました。しかし、講義内容に追加するように書き始め、写真を集め始めると膨大なものになりそうなことが分かりました。そのため、著者の希望がかなうかどうか分かりませんが、分冊のような形をとり、まずは「表皮角化細胞性腫瘍」のみを取り上げて頂くようにしたのが本書です。

内容には、必ず基礎的概念を一つの章あるいは別立ての項として加えてあります。まずしっかりと基礎概念を理解して頂きたい、それがあある病気の病理像を真に理解する近道だと信じているからです。各腫瘍では、定義、病因・組織発生、臨床像、病理組織像、組織学的鑑別、必要に応じて語源的考察や病変の進行と予後を項目として挙げました。そして、よりビジュアルに理解が及ぶように絵による説明を追加し、症例によっては多数の写真を載せるようにしました。

病理組織標本や組織写真の蒐集は著者の趣味のようなもので、非常に多くの症例の蓄積があります。ただ、どうしても手に入らなかった症例や古いものでは色褪せたり空気が入って見えなくなった症例が多数ありましたので、いくつかの症例を知り合いの病理の先生や皮膚科の先生からお借りしました。また、蒐集した症例の中にはコンサルテーションとしてお送りいただいたものも含まれています。そして、いろいろな会で講義させて頂く機会を与えて頂きましたことがこの本の素となっています。本書を出すことによって、それらのご恩

に報いることもできるのではないかと思い、この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、本書出版の道を開いて頂きました(株)金芳堂の黒澤健社長、今回も見事な装丁にまとめて下さった市井輝和様に心から御礼を申し上げます。

真鍋 俊明